

# 愛労連第13回定期大会スローガン

人間らしく生き、働くために  
生かそう憲法、変えようくらしと職場

## もくじ

### ◇ 第1号議案 1995年度活動経過及び総括（案）

はじめに .....	2
一年間の運動をふりかえって .....	3
課題別の運動経過と総括 .....	5
1. 95国民春闘、最賃などのとりくみ .....	5
2. いのちとくらしを守り、「人間らしく生き、働く」ために…	11
3. 平和と民主主義・憲法擁護、 政治革新の実現と共闘の発展をめざして .....	17
4. 組織の拡大強化のとりくみ .....	19

### ◇ 第3号議案 1996年度運動方針（案）

情勢の特徴と展望 .....	24
運動の基本的な構え .....	32
統一的に追求する重点課題 .....	34
1. 96国民春闘について .....	34
2. 賃金・労働条件のたたかい .....	35
3. 雇用確保、規制緩和・リストラ反対のたたかい .....	35
4. 権利擁護、男女平等、いのちと健康を守るたたかい .....	36
5. 国鉄闘争のとりくみ .....	37
6. 地労委闘争のとりくみ .....	38
7. 国民生活擁護、社会保障拡充をめざすたたかい .....	38
8. 平和・民主主義、憲法をくらしと職場に生かすたたかい …	39
9. 国際連帯活動について .....	40
10. 組織拡大・強化のとりくみについて .....	40
11. 青年協・婦人協活動について .....	42
12. センター機能の強化と財政基盤の確立について .....	42

## 第1号議案

# 1995年度活動経過及び総括(案)

## はじめに

村山内閣と財界は、離合集散を繰り返したあげくの「オール与党体制」のもとで悪政を国民につぎつぎ押しつけ、異常円高・不況をテコにリストラ「合理化」を強行し、21世紀の労働者支配を展望した「新日本の経営システム」を明らかにするなど、深刻な政治と経済のいきづまりを日米軍事体制強化を機軸にした、労働者・国民の支配体制の全面的な改悪で乗り切ろうとしています。

そのために、あらゆる分野・階層で矛盾が吹き出し、労働者・国民の不安と怒りは広がり、要求は切実なものとなってきています。東京・大阪の知事選挙で示された選挙結果は、公約違反の「オール与党」の既成保守政党に対する審判とともに政治の変革を求める有権者の新しい流れでもあります。

このような避けがたい矛盾の広がりや国民の意識の変化のもとで、階級的労働組合の果たす役割はますます重要となってきています。全労連の「人間らしく、生き・働くために」・愛労連の「県下すべての労働者・県民を視野に」というスローガンのもとでの運動は、広範な労働者・国民との共同をつくりあげ、奔流となって、新しい情勢を切り開くものとなるものと確信しています。

愛労連を結成して5年余、運動の到達点を明らかにしつつ、情勢にふさわしい運動を追及していきます。



# 一年間の運動をふりかえって

愛労連は、参院再選挙の終盤を迎えた94年9月3日～4日に、第11回定期大会を開催し、愛労連結成から5年を経たこの間の愛労連運動の総括をおこない、新たな年にむけた運動方針を確認するとともに前進への決意を固めました。

この1年は、秋年末闘争から95国民春闘、知事選挙、統一地方選、そして参院選と、まさに、たたかいに次ぐたたかいの連続の年となりました。

すべての労働者・県民を視野に入れた要求実現をめざす共同闘争の前進に努力しましたが、要求の獲得水準や運動の到達点は必ずしも組織拡大に結びつかないなど、かなり厳しい結果となりました。それだけに、引き続きたたかいにむけ、運動の総括を深めることが重要となっています。

第一に、財界・大企業が長引く不況と円高を口実に、賃上げゼロ・春闘解体やリストラ・人べらし「合理化」、産業空洞化など労働者・国民に対する、かつてない露骨で全面的な攻撃を強いるもとのたたかいでした。

(1) 私たちは、知事選挙、統一地方選、95国民春闘で、要求前進と結合し、また、独自にも学習や集会、宣伝や要請行動など愛知総行動やトヨタ総行動を節に不況・円高打開、産業空洞化反対の共同闘争を積極的に発展させました。しかし、要求実現をめざす継続したとりくみという点や単産・地域からの要求と運動を積み上げてとりくむという点で不十分さを残しました。

(2) 51名の指名解雇を撤回させたJMIUバルダン分会のたたかいやオークマ、ブラザー販売などリストラ攻撃に対するたたかい。情勢に便乗した組合つぶしとのたたかいで解決した運輸一般アサノ闘争や今もたたかっている平安ナマコンや医労連愛治病院。証人採用で新たな局面をむかえた地労委闘争や政治解決に動かざる得ないところまで押し上げた国鉄闘争など、労働者の権利と争議解決にむけたとりくみの前進とともに、結成したばかりの新しい組合での再建闘争の難しさを示した全国一般ゴシボ分会や司法の反動性をむき出しにしたきずな・アオイ貯木分会の不当判決など、これらの争議から教訓を学び、県内すべての争議勝利にむけた愛労連のイニシアの発揮が求められています。

第二に、村山内閣と旧連立内閣の、年金、医療、消費税、コメのウ・ラウンド

合意批准、公共料金の相次ぐ値上げ、小選挙区制区割り法、自衛隊法の改悪など国民犠牲の悪政とのたたかひの連続でした。

- (1) 秋年末闘争での年金・消費税・コメの3課題を中心としたたたかひでは、愛労連に「3課題企画会議」を設置し、県内の民主団体や共闘組織との共同闘争の調整や全国的共同闘争の前進に大きな役割を發揮しました。その結果は、年金や消費税の改悪案が国会で、短時間審議で採決されとはいえ、私たちのたたかひと世論によって、法案の一部変更や手直し、実施の先送りなどをかち取り、今後のたたかひ如何では、改善へむけた運動の展望につなげることができました。
- (2) また、平和と民主主義を守るたたかひでは、地域労連が地域に於ける共同闘争の前進に継続的な努力を積み重ね、県民の長年の要求であり念願だった西三河・依佐美通信基地の返還をかち取るとともに、「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名では、地域労連が自治体過半数の達成への努力とも結合し、ついに愛知県民の過半数達成をなしとげました。

第二に、参院再選挙、知事選、統一地方選はじめ、目前に迫った参議院選など要求実現と結びついた国政・地方政治の革新をめざすたたかひの1年でもありました。愛労連は、これら一連のとりくみで労働者の要求を明らかにし、国政や地方政治の現状とともに政党選択の基準を示しつつ、組合員の奮闘と決起を呼びかけましたが、有権者の政党離れや投票棄権という流れを組織内でも食い止めることができませんでした。

- (1) しかし、公約違反や自民党政治の枠内での、オール与党体制に対する、国民との矛盾や怒りが強まるもとの、私たちがめざす革新の多数派にむかって、その条件がつくられつつあるといえます。
- (2) また、愛知知事選挙の2日前に発生した阪神淡路大震災では、愛労連は全労連や革新県政の会とともに、職場や街頭でのカンパ活動や救援隊を派遣し、被災された方々の激励と被災地の復旧・復興にむけ奮闘してきました。この教訓は、あらためてゼネコン政治・大型プロジェクトなど大企業奉仕の政治責任を問い直すとともに、安全で安心して暮らせる住民本位の街づくり・国づくり運動の重要性を示しています。

第四に、組織拡大・真の労働戦線統一にむけ奮闘しました。10万人愛労連建

設をめざす運動は、結成以来の目標であり、これまでにいくつかの単産と地域が積極的なとりくみで前進面を切り開きつつありますが、愛労連総体としては、定年退職など自然減をうめる水準から抜け出せずにいます。愛労連・地域労連や単産・労組の運動の影響力を強めるとともに、今日の有利な情勢を生かしきる運動の構えが強く求められています。

(1) この1年(5月17日現在)は、3か年計画の最終年として各単産はかかげた目標の達成にむけ全力をあげてきました。新たな組合・組合員の拡大では、年金者組合の2000名達成、名勤労組のパートの組織化、自治労連自治体一般の2組合結成、運輸一般の分裂職場での組合間の共同の前進や公然化など多数派に向け前進、また、多くの組合で新入社員・新採者への呼びかけ・歓迎会、地域と単産・単産相互の共同(運輸一般・建設一般)による宣伝行動、労働相談110番と結んだとりくみなど組織拡大にむけ、新たな情勢を切り開きつつあります。

(2) 愛労連は、すべての労働者・労働組合を視野に入れた活動を推進するために、労働戦線統一の母体としての役割発揮を再確認するとともに、愛労連・地域労連・単産の、あらゆるつながりを生かした、系統的で積極的なとりくみ強化が引き続き求められています。

## 課題別の運動経過と総括

### 1. 95国民春闘、最賃などのとりくみ

(1) 不況打開の共同行動を土台に、95春闘勝利・政治革新をめざして

95国民春闘は財界と日経連による春闘解体攻撃、連合・NTTなどの春闘つぶし、村山政権と新旧連立政党による国民生活破壊の翼賛政治とのたたかいでした。愛労連は「人間らしく生き、働くために」「すべての労働者・県民と一致する要求で共同を追求し、95国民春闘の勝利と政治の革新を」めざしてたたかってきました。

愛労連95国民春闘方針では、①県下のすべての労働者・県民を視野に入れ、共同を追求し、県下の労働者・労働組合・県民とともに運動を発展させる②情勢をしっかりと理解してたたかうため、職場・地域での学習活動を強化し、

とりくみへの参加を職場・地域から一人でも多く増やす、③春闘にとりくみながら組織の拡大・強化を大胆にすすめる、④悪政を許さず、労働者・県民の生活向上のために県知事選挙・統一地方選挙で政治の革新をめざす、を運動の基本としてとりくんできました。

#### < 95国民春闘の具体的なとりくみ >

① 12月10日～11日の「95国民春闘学習討論集会」にあわせて、95ビクトリーマップを作成。「愛知に本社を置く」企業だけでなく、三菱や日立など愛知にある大企業も対象に、活用の幅をひろげてきました。

#### ② 第12回トヨタシンポジウム…12月4日

安城市民会館で開かれ、約170人が参加。佐々木憲昭氏（日本共産党経済政策委員長）、苫原敏郎氏（トヨタ職場の自由と民主主義を守る連絡会）、阿部精六氏（愛労連事務局長）の3氏が基調報告。苫原氏は、あらたな勤務形態である「連続2交代」について、阿部氏は、タイ・マレーシアの調査活動について報告。佐々木氏は「悪魔の循環とトヨタの社会的責任、民主的規制の課題」と題する報告のなかで、「トヨタ本社は、リストラで2000億円ものコスト削減をしたが、そのうち1500億円余が人件費の削減。下請け単価の切り下げ、多数の在職死亡を生む労働強化が強行された。豊田市の法人税は3年で3分の1になった」など深刻な実態を告発しました。

#### ③ 95新春労働者大学習会…1月8日

「愛知の情勢と95県民春闘」大木一訓・愛知労問研所長、「95年の政治の展望」浅井基文・明治学院大学教授、「人間らしい労働と生活を求めて」山田信也・愛知健康センター理事長の3氏が講義。200人余が参加。

#### ④ トヨタ総行動…1月16日

例年の3月21日の行動にさきがけて、トヨタの要求提出前に職場労働者への激励をと「大幅賃上げ、連続2交代制」などの課題でとりくみ。早朝宣伝も本社・元町・高岡・堤の4ヶ所から上郷・三好・下山・明知をくわえた8ヶ所で実施。この冬一番の冷え込みの中、早朝から185人が参加。トヨタ自動車への要請行動もおこなってきました。

#### ⑤ 2・16愛知総行動のとりくみ

労働者・中小企業・中小業者の共同で95国民春闘勝利、営業と生活を守り、すべての争議勝利、不況打開、リストラ「首切り」反対、産業空洞化阻止をめざす2・16愛知総行動（愛労連、愛商連、愛知争議団）には、180人が参

加。愛知県、名古屋市、通産局、県経協、トヨタ自動車をはじめ、国立名古屋病院、日立、NKKなど24カ所への要請。早朝の6号地での宣伝行動には、約30人が参加しました。地域では、千種名東・知多、尾東、西三河、港、一宮、東三河、尾中の7地域でとりくみ。自治体への要請行動や労働相談などそれぞれに創意を凝らした行動として展開されました。

⑥交運部会が自動車パレード…2月19日

名古屋と豊橋の2カ所で実施。昨年を上回る150台が参加。

⑦婦人協総行動…2月28日

働く女性にかかわる24時間の要求をまとめて愛知県経営者協会、労働省婦人少年室、愛知県労働部・民生部（児童課・高齢者対策室）教育委員会へ要請行動をおこなった。また、総行動のとりくみの一貫として自治労連婦人部が市長会、地方課など5部所へ要請行動をおこなった。参加者は併せて40名。

⑧3・21県民集会

トヨタの工場前で早朝宣伝には、240人が参加。愛商連・愛労連・トヨタ総行動道実行委員会の主催でおこなった決起集会は、全県から1000人を越える参加。豊田の街をデモ行進、市民にアピール。

⑨95国民春闘の結果とこれからの運動のすすめかた…6月17日

生協労連書記長の鈴木彰氏を講師に招いて学習。「我々は賃金闘争を年1回のたたかいとするのか、それとも年3回（春・夏・冬）のたたかいとするのか」「ナショナルミニマムの1つである最賃闘争は…」など低賃金構造の打破や官民一体となつての闘争構築など、来春闘へむけての展望を…。

春闘賃上げ結果

年別 (年)	愛知春闘共闘調べ（単純平均）		県労働部調べ（加重平均）	
	回答・妥結平均 (円)	回答・妥結率 (%)	妥結平均 (円)	妥結率 (%)
1990	15,202	6.38	14,091	5.9
1991	15,037	6.08	14,152	5.7
1992	13,425	5.78	12,390	5.0
1993	11,067	4.38	10,065	3.8
1994	8,542	3.74	8,066	3.0

## (2) 賃金要求の到達点、労働条件改善のたたかい

① 7月8日現在、愛知春闘共闘加盟組合の回答・妥結状況は要求組合235のうち219組合で回答を引き出し、単純平均で6,987円、3.12%となりました。前年同時期(94年7月8日現在)との比較では額で1,555円の減、率でも0.62ポイントの減となっています。この状況は、5年連続して賃上げ結果が前年比減となるものであり、90春闘の最終結果(15,200円、6.38%)と比べるとかなりきびしい状況となっています。

「賃上げゼロ・定昇のみ」「賃金体系の見直し」など不況、異常円高のデメリットを元凶の大企業の責任を棚上げし、労働者の犠牲で凌いでいこうとする攻撃は、95春闘でいっそう際立ってきました。建設一般・銭高組では「基本給の一律5万円カット、手当への移行」が打ち出されるなど、これだけ失業者が多くては企業内で賃金が上がるわけがないとの押しつけが横行しています。最賃や雇用、社会保障など全体を結んだとりくみが重要となってきています。

JMIUでは、川本製作所が先行組合として奮闘、14,900円+620円を引き出し。藤栄精密は、ストを背景に3,000円の上積み、東洋工機では、会社側の合理化提案を非組合員のほとんど全員を含むたたかいで一定はねのけて妥結、さらに職場への影響力をひろげて組織拡大にとりくむことにしています。全国一般では、アクリル分会・ナトコ労組・エレクトロニクス労組などで上積みをかちとり、生協労連では名動生協労組がはじめてのストライキを実施、医労連でも今までで最高の半日ストを決行するなどねばりづよいたたかいが展開されました。しかし、不況下の春闘のなかであきらめてしまったところと労働組合の原点を守り要求実現のために奮闘したところでは同じ単産内でも差ができています。

②労働時間短縮などの諸要求でも、運輸一般、JMIU、福保労などで週休2日制をはじめとした労働時間短縮などの成果をかちとっています。とくに福保労のみならず福祉分会では4週8休制の実現をかちとるという顕著な前進をしています。

## (3) 統一行動を重視、地域春闘・官民共同のとりくみも前進

①全労連・愛労連は統一行動を重視して95国民春闘をたたかいました。2月16日の愛知総行動、3月1日の春闘闘争宣言、16日・24日の全国統一行動、3月21日のトヨタ総行動など単産・地域労連がそれぞれの役割を発揮



して統一行動をおこなってきました。

②地域労連のとりくみでは、宣伝行動や統一行動に合わせての地域集会などがとりくまれました。単産の努力とともに、地域での対象企業への交渉など尾中労連、東三河労連、港地区労、一宮、名南労連などですすんでいます。さらに地域の運動を具体化するうえで「この地域から何万円以下は許さない」や、「ビクトリーマップ地域版」の作成など地場の特性を生かしたとりくみを全体へ広げていくことが必要となっています。また一宮地区労連、尾東労連、尾中地区労連などでは争議組合の支援にも積極的にとりくむなど地域労連の存在意義を地域に示しています。特筆すべきなのは、名南労連で勢力が小さいのだからとにかく目立つことをして影響力を広げようと、始めてのとりくみとして地域内に「春闘ポスター」を張りだしたり、自動車デモを実施したりしたことです。港地区労の陸上と海上による宣伝・デモ、企業・行政への申し入れをおこなう港総行動などとあわせて、こうしたとりくみを全県的にひろめていくことが求められています。

③全国一般と国公共闘との間での「官民共同」の展開は、行動日当日だけのとりくみとせず、事前の学習・交流などを通じ、双方の要求を理解しあうなど内容的にも着実に前進しています。まだ共同の幅が役員段階にとどまっている弱点はありますが、全体へ広げる努力が重ねられています。愛労連全体でのとりくみや、日常的に「顔」を合わせている地域での「官民共同」の具体化が求められています。

#### (4) 95春闘の到達の基本的評価

①愛商連・愛知争議団・愛労連の共同でとりくんだ2・16愛知総行動は、大いに歓迎された行動となり、地域でのとりくみも昨年の実績を超え、前進をつくりだしてきました。要求の集約や、それにともなう運動(体制)構築に準備期間の不足などから期待に十分応えきれなかった反省はありますが、継続的にとりくむことへの要望など共同の拡大へ展望をつくりだしました。

また、トヨタ総行動については従来にない発展がありました。それはトヨタ総行動が不十分ながらも全県的な総結集の場となったことです。しかも愛商連との共同でとりくまれたことは新たな発展方向を示しています。それは今日の円高問題をとっても、トヨタ1社で日本の貿易黒字の約1割をしめているという状況のなかで(トヨタは新卒採用者の大幅減や、2年連続の初任給凍結など

地域に与える悪影響は、はかり知れないものがある)、ビクトリーマップで示されたように大企業の不当な利益を社会的に還元する県民的共同の構築という点で新たな到達点を築いたものです。トヨタの賃金闘争でもマスコミでは当初8,400円といわれていたものが8,500円~8,600円といわれだし、最終的に8,700円になったという経過のなかには、私たちのたたかいの力も反映していたことは否めません。

②1月に開催される春闘幹部学習会は、今年3回目ですっかり定着し、この学習会が愛労連春闘の本格的開始の出発点になっています。しかし、まだ一部の幹部だけのものであり、単産・地域労連・職場で情勢とたたかいの方向についてしっかりつかむことが本格的に求められています。また、要求づくりについても本格的なとりくみが必要です。全国一般・アクリル分会では全組合員への生活費実態調査を実施し(11月に実施)、それにもとづく要求の討議をアンケートの実施も含めしっかりおこなって要求を決めています。生活実態にもとづく要求づくりに職場での地道な努力が求められています。ビクトリーマップの活用についても、いっそうの創意・工夫が求められます。春闘前段の時期やトヨタ総行動での活用などに集約されてしまっているような状況もあります。各地域ごとの「ビクトリーマップ(ポロもうけイラストマップなど)」づくりなど活用の幅を広げることが重要です。

③東海地域法律関連労働組合が新たに春闘共闘に加盟したり、JM IU、運輸一般、自治労連で新たな組合を結成するなど一定の前進がありますが、愛労連全体としての前進にはなっておらず、むしろ組織の拡大強化という点では愛労連の大きな弱点として残されていることを組織全体が見つめ、この克服に努力することが求められています。春闘というたたかいが一番高揚する時期に共同と仲間づくりでの前進をかちとることが大切です。

④県知事選挙から統一地方選挙、革新統一の選挙から党派選挙という流れの中で愛労連は、春闘との結合したたたかいを提起。要求実現の展望をきりひろく革新の多数派づくりへ組合員の参加を呼びかけましたが、「無党派・棄権」という流れは組織内にも大きく、今日の政治情勢のもとでの「革新の共同」の展望を示し、労働組合としての政治闘争・選挙闘争の位置づけをあらためて明確にしていくことが求められます。

## (5) 最賃闘争について

94年10月から施行された現行の地域最賃は、日額4,897円、時間額613円で、月22日就業しても11万円にならないという低水準です。日経連は最賃制度について産業別最賃制度の廃止、地域最賃の凍結などをいっています。全国一律最低賃金制をめざすとともに、現行最賃の大幅引き上げをめざすとりくみが求められます。愛労連最賃闘争委員会は、団体署名のとりくみと基準局交渉、ナショナルミニマムに関わる各階層との懇談をすすめています。

## (6) 第66回メーデーのとりくみ

①白川会場の愛知県中央メーデーには、実行委員会参加の労働組合・民主団体をはじめ、上部団体の枠を越えて参加の労働者・労働組合など、1万人を超えて結集しました。

大幅賃上げ・労働時間短縮、リストラ「合理化」反対をはじめ、阪神・淡路大震災の教訓を生かそうと安全な街づくりをなど、切実な要求スローガンが雨の降りしきるなかでも元気一杯にかかげられ、たたかう決意のみなぎるメーデーとなりました。

デコレーション・コンクールは、「産業空洞化」反対をシンボライズした名港労協の作品が最優秀賞を獲得しました。

若宮大通り公園パフォーマンス広場でおこなわれた青年による「夜あそびメーデー」（4月28日）には120人が参加しました。

②地域メーデーは豊橋400人、蒲郡150人、安城200人、瀬戸250人、春日井・小牧300人、一宮250人、江南100人など7ヶ所（全体で1650人）で開催されました。

## 2. いのちとくらしを守り、「人間らしく生き、働く」ために

### (1) 人べらし「合理化」反対、雇用確保、大企業の横暴を規制するたたかい

①異常円高・不況を口実とした大企業のリストラ・人べらし「合理化」は、大企業労働者だけでなく、「仕事をやればやるほど赤字に」など中小企業・中小業者へも深刻な影響を広げています。愛労連・地域労連は、トヨタ総行動や2・16愛知総行動、3・21県民集会などリストラ「合理化」に反対し、労働者・国民の生活と雇用、地域経済を守るとりくみを愛商連や大企業労働者、

争議団と共同して地方自治体・議会、労働基準局など国の出先機関、経営者団体やトヨタ自動車などに対して不況の犠牲転嫁を許さない、人権無視の経営姿勢は許さないの、たたかいの輪を広げてきました。

行動を通じては、とりくみのいっそうの発展へ、トヨタ総行動の豊田市に集中された運動の全県への拡大や行動配置の情勢にそった工夫、継続的なとりくみや、2・16愛知総行動などへの愛労連としての要求の明確化、年間を通じての要求の集約の努力などが求められました。

②大企業の横暴を規制するたたかいへむけ、愛商連・愛知労問研などと共同して愛知の産業・労働実態に即した政策づくりをすすめてきました。その一環として自動車産業を中心とした海外進出の実態調査にタイ・マレーシアを訪問しました。

③全労連の全国一斉行動としてもとりくまれた「労働相談110番」には、労働時間・休暇問題、賃金・残業代不払い問題、解雇問題など不況を反映した深刻な相談が寄せられました。臨時電話での特定日だけの「相談」活動から、日常的に対応できる体制の確立、とりくみの効果的な宣伝などの検討が重要となっています。

④「解雇を規制し、雇用・失業対策改善を求める」署名運動は、春闘以降の重点課題としてとりくみを展開。5月9日には学習決起集会を開催、東海北陸ブロックのキャラバン行動のなかでは豊橋、岡崎、一宮、名古屋・栄での宣伝・署名行動でアピール。学習討議資料や、宣伝ビラなどとりくみ促進への具体化が重要となっています。また、国民生活破壊・大企業中心の規制緩和問題でも学習会を開催、運動の具体化へとりくみを始めています。

## (2) 地労委民主化闘争について

労働者委員7名を連合に独占させた知事の差別的任命から6年が経過しましたが、地労委民主化をめざす私たちの闘いは、裁判闘争を軸に粘り強く取り組まれ、次第に知事と労働部を追い詰めています。

とくに昨年度は、9月と2月と、見崎副議長が2度にわたって法廷に立ち、知事と労働部とがいかに意図的に愛労連を排除しているか、愛知の労働行政がいかに差別的かを、事実に基づいて厳しく証言し、県側を圧倒しました。

また、この証言のために地労委民主化会議が特別にプロジェクトチームを組んで調査しまとめた報告書は、①「差別行政を改めよ」と迫った愛労連の12

・ 1 対県交渉や、②県議会・民生労働委員会での和出県議の追及にも活かされ  
③労働委員会民主化シンポジウムでも紹介されて全国の闘いにも積極的に活用  
されています。

さらに、提訴後5年を経過した裁判でも重要な前進がありました。この6月  
に、県側が従来から激しく抵抗し、裁判所も渋っていた各論（損害論）証人の  
採用が認められ、9月以降、黒島・全国一般書記長と原田・川本労組委員長と  
2名の証言が入ることになったのです。裁判所あての一千を超す団体署名、七  
千枚のハガキ要請など、みんなで取り組んだ結果であり、単純に楽観はできな  
いものの、裁判闘争の今後の行方にも大きく響く重要な証言になるものと期待  
できます。

ところで、第33期の委員選任がすぐそこに迫ってきました。この選任にむ  
けて民主化会議は5月末に合宿をもって「今度こそ連合独占を打破しよう」と  
決意を固めていますし、6月末には「働くものの権利をどう守るか」をテーマ  
とする学習と結合して「決起集会」をもち、10万枚のチラシと署名用紙を印  
刷して世論作りに入っています。

4たび連合独占などという事態を許さないよう、この秋はさらに集中的に取り  
組む必要があります。

### (3) いのちと健康を守るとりくみについて

職場での労働安全衛生活動のとりくみでは、愛高教、生協労連・名勤生協労  
組、自治労連、JM IUなどで恒常的なとりくみがおこなわれています。しか  
し、全体のとりくみにはなっておらず、すべての職場で安全衛生のとりくみを  
すすめることが求められています。また、郵産労、医労連、全動労、紙パなど  
の夜勤規制のとりくみが健康センターを中心にとりくまれています。婦人協も  
健康問題で健康センターと懇談するなど新たなとりくみが始まっています。

### (4) 消費税の引き上げ・年金制度改悪・コメの輸入自由化反対、いのちとくらしを守るたたかい

3課題を中心にしたとりくみの推進へ、愛労連内に「大運動臨時事務局」を  
設置し、愛労連・愛商連・新婦人・日本共産党で常駐体制を確立。各団体や地  
域連絡会との連携を強め、署名・宣伝・議員要請活動を推進してきました。

消費税率アップ反対、コメの輸入自由化阻止をはじめとする切実な諸要求を

もちより、暴挙を重ね、悪政をすすめる村山内閣に怒りをこめて即時退陣を求める11・13国民大集会（東京・代々木公園）に全国から10万人が結集。愛知からは、新幹線（名古屋760人、豊橋90人、三河安城10人）、バス（愛商連105人、民青18、県学連100人）の約1100人が参加しました。国民大運動県実行委員会は、中央行動のあとすぐに宣伝ビラ22万枚を作成し、地域・ターミナル宣伝など引き続きとりくみをすすめてきました。

国民不在の国会で悪法が急ピッチで成立する異常事態に対応できる国民生活擁護の共同行動、共闘組織への積極的な参加が重要になっています。

①年金制度改悪反対闘争は2年間に亘ってねばり強い運動を展開し、129国会（94年6月）では成立を許さず継続審議とさせましたが、94年12月村山・自民党政権のもと、十分な審議も議論もないまま成立させられました。しかし、愛労連は、秋年末闘争でも引き続き重点課題として学習会を重ね、活動への参加の幅を広げながら、ビラの大量配布、「年金110番」、宣伝テープでの継続的な街頭宣伝、議員要請行動などにとりくみ、13万筆の署名を集約しました。とりくみのなかでは、行動への参加者が「官」に偏るという問題や「110番」活動での事前の宣伝など不十分な面も残しましたが、愛労連・年金闘争常任闘争委員会や、国労・名高教など愛労連以外の労働組合とも共同した年金労組連絡会などこれまでにない体制や、運動の規模をつくりあげてきました。とりわけ地域労連は、ターミナル宣伝や全戸配布での120万枚余のビラを配布など運動の先頭で奮闘しました。国民的な課題として、かつてない構えでたたかいを展開。内だけの運動でなく、外へでることによってかつてない反応・手ごたえを感じたことなど労働運動の前進にとっても貴重な経験でした。

このとりくみのなかで「最低保障年金制度」の創設の必要性を訴えたことや「60歳部分年金支給」「併給禁止の経過措置」などとともに「国庫負担引き上げ」の検討を付則として明記させるなどの成果も得ました。

②愛知社保協が提起した「高齢者福祉の充実をめざす県民署名」のとりくみは、婦人協が愛知県知事選挙での重点政策の一つとして積極的にとりくみを展開しましたが、愛労連全体のとりくみとしては不十分な到達となっています。

社保協は、県・名古屋市の6月議会に105,068筆の署名を提出しました。結果は、県議会において日本共産党が提出した「介護手当」の請願に公明党、新進党が賛成し、継続審議となりましたが、社保協提出の請願は不採択となりました。「県民署名」の要請項目である、老人介護手当の増額や、ホーム

ヘルパーの増員、特別養護老人ホームの増設などは、署名・宣伝行動を通じても切実な要求であることは明らかとなっています。これらの要求を中心とした社保協自治体キャラバンが9月12日～14日に予定されています。愛労連・地域労連の秋年闘争の重要な課題としてとりくむことが求められます。また、国立病院の統廃合や、「あいち健康の森」構想にからんでの国立中部病院の縮小など、地域の医療要求を切り捨てようとする攻撃に対して、引き続きたたかいが重要です。

③消費税率引き上げ・廃止をめざすとりくみは、毎月24日の金山総合駅での署名・宣伝行動や、学習会など「消費税をやめさせる愛知県連絡会」の提起する運動を軸に、政府の減税・高齢者社会論などのごまかしを明らかにしながら、年金闘争と結んで職場・地域からの増税反対・消費税廃止の運動を強めてきました。消費税増税法案が参院本会議で強行可決された11月25日には、「村山内閣は即時退陣を」と、国民大運動愛知県実行委員会と消費税をやめさせる愛知県連絡会で抗議集会。「3・13重税反対全国行動」では各地の民商など中小業者との共同行動を広げてきました。

④コメの輸入自由化阻止は、愛知食農健とともに運動を展開。港地区労も大きな役割をはたしている「あいち食糧メーデー」や、全国キャラバン（愛知には10月1日～3日）、「お米と日本農業を守ろう10・8国民集会」への参加などとりくみをすすめてきました。

⑤介護休暇の法制化を含む「育児休業等に関する法律の一部を改正する法律案」が3月24日衆議院に提出され、6月5日に成立しました。

成立した介護休業法は「連続する3ヶ月の期間を限度として、1人につき1回」「施行期日が4年先送り」という極めて実効制のないもので私たちが主張してきた「期間365日」「複数回数の取得」「断続・連続時間での取得など多様な形態」「所得保障・代替保障・原職復帰」などの内容からは程遠いものです。しかし、労働省令・指針や労使交渉で可能な限り実効制を持つ制度に努力していくことが全会一致で確認され、所得保障については「義務化されるまでに検討をすすめ、その結果で所用の措置を講ずる」という付帯決議がされ、私たちの運動の成果が反映されました。

愛労連はこの間、職場からの署名・ハガキ要請行動、国会要請行動など実効ある介護休業の法制化に向けて運動をすすめてきましたが、男性労働者も含む運動には不十分でした。

今後は各職場での施行前の早期導入と、取得しやすい期間・回数、対象者の拡大、不利益取扱いの禁止、所得保障、代替要員の配置など実効ある内容で労働協約化する取り組みを強めます。

⑥国鉄闘争は、毎月の愛労連国鉄対策委員会で時々の情勢分析をおこない、全国統一行動への参加や、県独自の行動の意思統一をすすめてきました。また鉄道フォーラム愛知や「東海の会」のとりくむ中央行動や宣伝行動にも積極的に参加、愛労連としての役割をはたしてきました。

6・1中央決起集会への参加、「3・31解雇7年・いま国鉄闘争を問う」討論集会の開催、東海銀行や中部電力、日通など背景資本やJR東海の設立委員への要請行動、JR東海、JR貨物への抗議・要請行動をはじめ、毎月「1の日」の宣伝行動、利用者アンケートなどとりくみをすすめ、1047名の解雇撤回とともに、安全・安心・快適な公共交通の確立へ利用者との共同を広げるとりくみも追求してきました。

愛知・全動労勝たせる会は、昨年総会で3000名（当面1500名）の会員をめざしてとりくみを確認し、とりくみを強化、6月現在、会員1080名（1313口）となっています。

⑦愛労連は10月1日に争議団交流集会をおこない、全動労、運輸一般、JM IU・アクロス、医労連・愛治労組など組織内争議をはじめ中電、日立などが出席。愛労連の争議支援に大きな期待が語られ、争議対策委員会の確立やかかわり方（方針）を明解になど愛労連への要望がだされました。

米総行動と合同でとりくんだ11・16愛知争議総行動は、終日の要請行動とともに、中電包囲行動、日立争議支援決起集会と、延べ1000人余が参加したとりくみとなりました。また、尾東地域（日立争議団、JM IU・アクロス、医労連・愛治病院）での行動には、当該団体はもちろん確定闘争さなかの瀬戸市職をはじめ愛労連の仲間50人が参加。この日の行動は、それぞれの争議を単独でなく、横のつながりを持ち、面であたかう力強さを示したものとなりました。2・16愛知総行動（全労連・第3回争議支援全国総行動）では、さらに尾中（運輸一般・平安分会）、一宮（明治乳業争議）、東三河（きずな・アオイ貯木）なども参加をし、争議総行動への参加の幅を広げ、統一行動への期待の大きさを示しました。

この1年間では運輸一般アサノ争議や全国一般ゴシボ争議、JM IUバルダン争議など解決をしています。長引く不況を背景にした新たな争議も発生し



ています。愛知争議団との連携強化など引き続き争議支援のとりくみを強めることが重要となっています。とりわけ、中小経営者を激励し、職場と雇用を守るたたかひのとりくみが重要となっています。

④いのちとくらしを守るたたかひや、国民的な課題のたたかひなどの構築にとって、「センター」的な役割をはたすべき国民大運動実行委員会の継続的なとりくみ、それを支える体制強化が切実に求められてきています。愛労連・地域労連としてその運動・体制づくりに積極的な役割をはたしていくことが重要です。

### 3. 平和と民主主義・憲法擁護、政治革新の実現と共闘の発展をめざして

#### (1) 被爆50周年を迎えて平和運動の発展をめざして

国会での戦後50年決議や、従軍慰安婦問題に象徴される「戦後・被爆50年」を機にした平和・民主主義、憲法改悪の攻撃に対して、愛労連は「反核・平和」「憲法擁護」のたたかひを前進させるため、安保破棄県実行委員会や県原水協などの共闘組織とともに運動をすすめてきました。

10月1日、白鳥・センチュリーホールで開かれる「ヒバク・戦後50年あいちの会」による県民集会の成功へむけ、平和担当者会議など愛労連内でのとりくみの促進が求められています。

#### (2) 核兵器廃絶のとりくみ

アメリカの強引なNPT無期限延長強行や、それに加担した村山内閣に対する怒りは大きく広がっています。愛知はヒロシマ・ナガサキ「アピール」署名の県民過半数を3月末で達成、国民過半数をめざして奮闘している全国の仲間を励ましました。愛知の過半数達成に各単産はもちろん、東三河労連や尾北・尾東・尾中労連など地域の労働者が大きな役割を発揮しました。

愛労連は、3・1ビキニや、国民平和大行進、原水禁世界大会に50周年にふさわしい行動をと奮闘してきました。国民平和大行進には、多くの単産が例年を上回る参加で、昨年を上回る1000人以上を上回る、全体で5100人（愛知県内参加者）を超す成功へ大きく貢献しました。今年はいじめて東京から長崎までかけぬける反核マラソンや、反核ライダー、世界大会の成功へいっそうのとりくみ強化が重要となっています。

### (3) 憲法改悪阻止、日米安保条約廃棄、小選挙区制廃止などのとりくみ

①憲法9条を焦点に解釈・明文改悪の執拗な攻撃のもとで、憲法違反の悪法が国民生活を直撃しています。小選挙区制反対闘争では、導入反対運動に結集したエネルギーを「国民運動」など小選挙区制廃止を求める運動に再結集することができずにいます。「政党助成を阪神・淡路大震災の復興にまわせ」などの切実な要求と合わせて、職場・地域から「小選挙区制廃止」にむけた学習・宣伝を強めていくことが必要となっています。

②「緑と光あふれる街に弾薬庫はいらない」と県原水協、尾中労連、新体連などの主催でおこなった第11回高蔵寺平和マラソンには約200人が参加。軍事基地撤去の運動へ継続的なとりくみをすすめています。

③自衛隊法の改悪、自衛隊のルワンダ派兵など海外派兵の拡大、国連「安保理常任理事国入り」などの動きに対して、安保破棄県実行委員会などとともに緊急の宣伝行動など、世論に訴えるとりくみをすすめてきました。

### (4) 国政と地方政治の革新をめざす運動

①参院愛知再選挙のとりくみは、村山内閣発足後はいじめの国政選挙として新旧連立の悪政に審判をくだす絶好のチャンスと位置づけ、「政党との協力共同」「政党選択の基準」を示し、要求実現と革新的世論の結集にむけ、職場での旺盛な政治論議のとりくみを訴えてきました。

選挙の結果（投票率は42.87%）は、

都築 讓	931, 936
水野 時朗	544, 637
末広真季子	473, 703
大村 義則	114, 693
牧野 剛	88, 883

②一斉地方選挙では、愛労連は、2月におこなわれた知事選での課題でもあった住民が主人公となる地方自治の確立へむけて、7月の参議院選挙・この秋にも予想される衆議院選挙など国政選挙と一体のものとして、また、春闘の重要な柱としてとりくみを位置づけ。革新を願う広範な人々との団結にこそ政治の流れを変える力があることを明らかにし、各単産・地域において全力でたたかってきました。結果は、十分といえるものにはなりませんでしたが、一定の革新的変化を住民のなかに築いたたかいかであったと考えています。

#### (5) 革新県政の実現をめざすとりくみ（別紙に詳細な知事選総括あり）

昨年の定期大会で県政革新をめざすカンパ活動を決め、運動の財政的な保障をつくりあげるとともに、12月10日、95国民春闘討論集会の夜、知事選へむけて労働者選対を結成。芸術文化センターの追加工事をめぐる赤字補填疑惑などにフタをし、ゼネコン奉仕の金権知事再選を相乗りでのりきろうとする「オール与党」勢力や「連合愛知」の策動を許さず、革新県政の会の徳田秋候補の勝利をかちとろうと労働者独自の作戦行動や「会」の宣伝行動など積極的にすすめてきました。

選挙結果は（投票率32.38%・前回は36.06%）

徳田 秋	247,951	15.20%
鈴木 礼治	1,143,913	70.14%
牧野 剛	238,925	14.65%

#### (6) 国政の革新をめざす革新懇運動の発展をめざして

犬山市で開催された、全国革新懇主催の「地域革新懇・職場革新懇全国交流集会」には、県下19地域、15職場、25の団体・労働組合から206人が参加しました。地元開催という条件もありましたが、今日の情勢の中で革新懇運動が政治革新を実現する確かな道としてその期待と気運が高まっていることを示しました。県革新懇の主催した緊急シンポジウム「阪神大震災から学ぶ」をはじめ、東部、西三河、海部・津島、名南、港、中地域革新懇などで、コメ問題、年金、消費税、県政問題、いじめ問題、街づくりなど「シンポ」や「講演会」、「学習会」の開催など多彩なとりくみがおこなわれています。この地域革新懇運動のなかで地域労連が積極的な役割をはたしてきています。県革新懇は事務所を開設し、専任スタッフなど体制の強化をはかってきています。地域・職場で政治革新の展望を大いに語り、革新懇の運動強化と結成をいっそう強めることが求められます。

## 4. 組織の拡大強化のとりくみ

### (1) 教育・文化活動について

①愛労連のたたかひの姿を全体に知らせ、運動の牽引者として、組織者としての役割も担う「愛労連新聞」は、組合員にまたれる新聞とするため、定期発

行の確立や、紙面の充実など掲げてきましたが、合併号として2ヶ月を合理化することや、取材活動が不十分なことなど掲げた目標には及びませんでした。また、月1回の機関紙の速報性を補うことも主要なテーマとした愛労連ニュースが定期的に、継続的に発行できなかったことは、春闘時などそれぞれのたまたかの交流が必要な時などに対応できなかったなど反省すべき課題を残しました。教宣部会を実質的な運営とするなど改善が求められます。

地域やターミナルでの宣伝行動でのピラは、トヨタ総行動や2・16愛知総行動などの行動にあわせて発行、目に見える活動の一端をはたしてきました。

②国労や新聞労連、名高教などと実行委員会を構成してとりくんでいる「愛知働くものの囲碁・将棋大会」には、90人が参加。今年で4回目を数え、運営は一定手慣れてきている反面、参加団体が固定化されてきている側面もあります。実行委員会の構成に競技者を含めるなどの工夫や、開催場所・日程などの検討も求められます。

<囲碁A> 27人参加

優勝 吉田 鉦一 (名古屋市職)

準優勝 小島 勝 (全港湾)

3位 大石 哲也 (名古屋市職)

<将棋A> 18人参加

優勝 鈴木 栄児 (名古屋市職)

準優勝 竹川伊知郎 (名古屋市職)

3位 鈴木 洋三 (国労)

<囲碁B> 22人参加

優勝 加藤 邦夫 (名水労)

準優勝 岡本 輝彦 (名水労)

3位 新藤 保 (名古屋市職)

<将棋B> 23人参加

優勝 河村 幸博 (名古屋市職)

準優勝 岡田 龍司 (私教連)

3位 沢田 宏 (全港湾)

## (2) 組織の拡大・強化と共同の拡大について

労働相談活動を3月10～12日、5月13～14日おこないました。それぞれ8件、16件の相談がありました。この2回の労働相談では直接組織化には結びついていませんが、JMIU・バルダン分会は労働相談をつうじての組織化ですし、「上部団体に加盟するにはどうしたらよいか」と言って労働組合の委員長が相談にきたり、未組織ハガキピラを見て「労働組合をつくりたい」と言って愛労連に相談にきたりなどしています。労働相談活動をつうじての組織化は今後も強化していく必要があります。また、年金者組合や生協労連のパートの組織化のように要求実現のとりくみとあわせて組織拡大をはかっていくことがこの間の教訓ともなっています。

組織拡大強化のとりくみは、幹事会、組織部会、単産組織部長会議を軸にすすめています。組織部会は3回、組織部長会議は1回しか開催できませんでした。幹事会・組織部会・単産組織部長会議を有効的に開催し、とりくみを強化することが必要です。

### (3) 地域労連の発展をめざして

現在の25地域労連は、その地域内で労働者・住民の要求実現をめざして積極的なとりくみを展開しています。一宮地区労連、尾中地区労連、尾東労連、東三河労連などでは地域内の争議組合の支援などを地域労連全体のとりくみでおこなっています。地域メーデーも東三河労連、尾中地区労連、尾東労連、尾北労連、一宮地区労連でとりくまれています。

組織的には地域労連全体で91年42,931人から94年の45,184人へと2,793人増えていますが、単産の組織人員数65,788人とは2万人以上の差があり、地域労連への結集はまだ弱いものがあります。地域労連の発展のためには専任の役員配置や財政問題などを解決していくことが求められています。

### (4) 青年部活動の強化のために

①94年11月に総会を開催し、JM IU・自治労連・愛高教・国公・医労連・生協労連で幹事会を構成し、はじめての女性幹事も医労連より選出されました。何よりも、青年自身の成長と組織の強化を軸にすえ、月2回の幹事会を中心に、さまざまなとりくみを役員でない青年も主体的に参加できるように、実行委員会形式でとりくんできました。

②10月28日から連続7回講座(毎週金曜日)で開催した第3回青年部新役員講座は、愛知国公と愛知学習協との共催でとりくみ、各労働組合から42名が参加しました。1月には、ニューイヤーズパーティーの開催や、知事選挙での革新県政の会青年連絡会のとりくみ、2月には、「サマーカーニバル」の県内プレ企画の第1弾として「あいちSkiカーニバル」を志賀高原で自治労連・名水労・愛労連実行委員会の共催でとりくみ、昨年の93名を大きく上回る265名が参加しました。4月28日には、メーデー前夜祭「夜遊びメーデー」を昨年に引き続き開催し、約120名が参加しました。被爆・敗戦50周年のとりくみでは、県下の青年・学生団体による「被爆・敗戦50年青年連絡

会」に参加し、6月24日、名古屋市中区の久屋広場で行った「ピースキッスフェスティバル」には、約1000名が参加しました。また、7月には反核ライダーにとりくみ、今年は、例年よりも自治体要請をひろげ、13自治体に要請を行いました。

③8月26日から28日に、静岡県浜松市で開催される「サマーカーニバル95in浜松」では、愛知県実行委員会を結成して、とりくみをすすめています。実行委員会では、愛知県から600名の参加を目標に、愛労連未加盟組合へのオルグ活動も積極的に展開し、参加を勝ち取ってきています。また、地域での青年の輪づくりへと、一宮や尾東地域で独自のプレ企画が行われるなど、「サマカニ」を合い言葉に青年部や青年の活動が活性化されつつあります。こうした流れを「サマーカーニバル」とりくみで終わらせる事なく、単産・単組青年部でも、地域でも青年自身の主体性を大切にし、「青年まかせ」にすることなく発展させることが求められています。

#### (5) 婦人協議会のとりくみ

婦人協議会は女性の24時間の要求を大切にし、憲法を職場に暮らしにいかし、人間らしい労働と男女平等の実現、平和と民主主義を守る取り組みをすすめてきました。

仕事と家庭生活を両立させるための社会的条件整備の取り組みでは実効ある介護休業の法制化と育児休業の協約化、保育・高齢者福祉充実の運動が課題となりました。6月5日に成立した介護休業制度は極めて実効性のないものですが私たちの一定の運動の成果で衆議院では政府与党が「法施行以前に実効ある制度を導入するよう事業主は努力すること」などの修正案を提出しました。婦人協は署名・要請ハガキなど実効ある介護休業の法制化にむけて積極的に取り組みました。

高齢者保険福祉計画充実の取り組みでは春闘でのブロック集会で学習しながら、愛知社保協の高齢者福祉充実10大要求署名や、地域での住民懇談会に積極的に参加するよう取り組みました。

「働く女性の24時間の要求を束ねて」女性春闘総行動デーを2月28日におこないました。愛知県(民生部・教育委員会・労働部)、愛知婦人少年室、県経営者協会などに50人の参加で要請行動を成功させました。要請行動後、金山で宣伝行動を行いました。

また、婦人協の運動を理解してもらおうと春闘時3地域でのブロック別集会（東三河ブロック、名古屋ブロック、一宮ブロック）を開催しました。参加者・内容とも充分とはいえませんが、一宮地域では独自で開催できる力量をもつなど前進がありました。組織確立・強化のためにも続けて取り組みたい課題です。

愛知母親大会、働く婦人の愛知県集会、3・8国際婦人デー、国際交流愛知女性の集いやイコールライツイン名古屋など県下の女性労働者・労働組合・女性団体と共同を広げてきました。

以上の運動・課題を広げるためには産別、地域に婦人部の確立が必要ですが、産別では9組織・地域労連ではゼロという状況であり、基本組織と共同して婦人部の強化・確立が急がれます。

